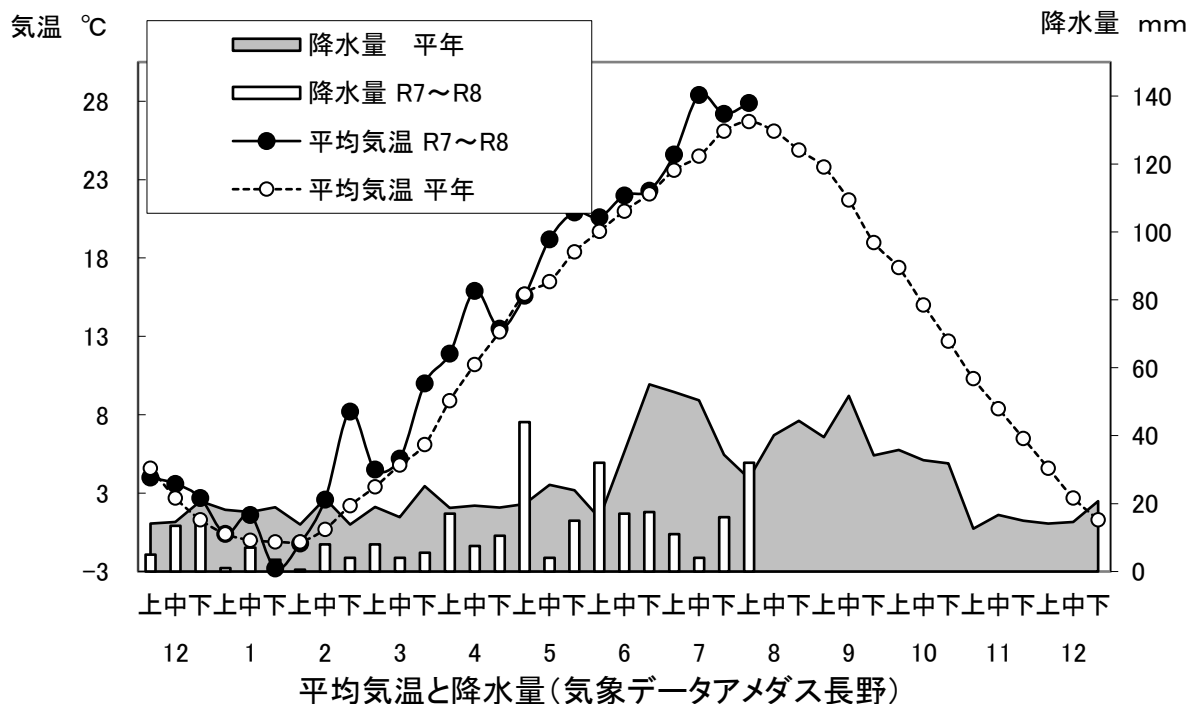


農作物の生育状況（8月20日現在）について

令和8年8月20日
長野農業農村支援センター

【気象データ】



【作物】

(1) 水稻

移植の早かったほ場や標高の低い地域を中心に収穫期が昨年度より早く、平年比でも5～7日程度早まった。高標高地帯や晩植地域にでも早い進展となっている。田植え後の高温により活着が良好で、初期生育は前進したことから、幼穂形成期も平年より早まった。また、高温少雨で経過したことから葉いもち病の発生は少なかった。一方で、イナゴやクサキリ類の食害による白穂が一部のほ場で散見された。

(2) 大豆

は種期が早かったほ場では出芽・開花ともに順調に進み、開花期は平年より早まった。7月は種のほ場では、干ばつの影響による出芽不良がみられる。麦後晩植地域においても、8月中旬までには播種がおおむね終了した。全般に高温干ばつにより、葉の反転がみられるほ場が多い。また、雑草の発生が多く、雑草害に悩まされるほ場が散見された。

(3) ソバ

戸隠の「キタワセソバ」は7月下旬に収穫が行われ、全体的に平年を上回る状況であった。秋ソバは7月下旬からは種が開始され、出芽は良好であったものの、一部ほ場では雑草の発生が多く、生育の遅れがみられている。

【果樹】

(1) りんご

りんご全般において、高温条件が続いたことで日焼け果の発生が多かった。全体的にどの品種も生育が進んでおり、着色良好である。「ふじ」の8月1日肥大調査では前年比縦115%、横117%、平年比縦112%、横107%とともに平年及び前年を上回っている。

(2) ぶどう

断続的な降雨となり、ナガノパープルで裂果が発生している。全般的に糖度上昇、着色は良好となっている。クイーンルージュ®も着色や糖度上昇及び酸抜けは良好である。

(3) なし

「南水」の8月1日肥大調査では、前年比縦100%、横99%、平年比縦96%、横91%と前年並みである。引き続き病害の発生は少ない状況で推移している。

(4) 核果類

8月1日肥大調査は前年比縦104%、横103%、側94%平年比縦106%、横96%、側87%と平年並みである。せん孔細菌病の発生は少なく、今のところ果実被害も軽微である。順次出荷が始まっている。

【野菜】

(1) アスパラガス

平坦部及び準高冷地帯の半促成作型（施設）、露地作型はいずれも立茎中で、夏秋どり中だが、一部で斑点病・茎枯れ病の発生あり。

(2) 果菜類

キュウリ

抑制作型のキュウリが最盛期となっている。露地について草勢が落ちている圃場が出ている。

ピーマンの収穫が各地で最盛期となっている。高温・干ばつの影響による、生長点付近の葉の展張が悪いこともあり、日焼け果や尻ぐされ果が多い。全般にオオタバコガの被害が見られる。

【花き】

(1) トルコギキョウ

抑制作型の7月中旬定植のものについては、草丈15～20cm程度。高温により草丈が確保できないまま、早期着蕾、枝数の減少傾向。一部の品種でチップバーンがみられる。

【畜産】

(1) 牧草

雨が少ないため草丈が伸びず、2番草の刈り取りができていない。一部では夏枯れも見られる。

(2) デントコーン

絹糸抽出期は7月最終週ごろ。生育は平年並みとなっている。